



# 富士登山

ふちんかん

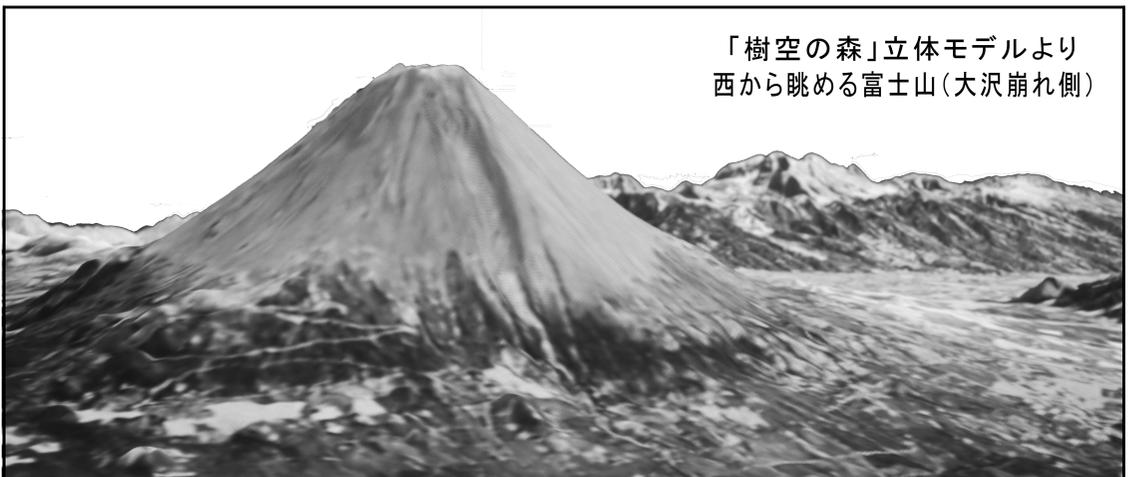
## 0. はじめに

富士山一度も登らぬ馬鹿、二度登る馬鹿  
という言葉があるらしい。一度登れば十分な山ということだろうか。

昨年は家族で8合目まで登った。その後、高山病の家族を残して私一人登頂した。

家族旅行としては十分かと思っていたが、上娘はどうも悔しかったらしく、もう一度行きたいという。もとより私は御殿場ルートというドMルートで「二度登る馬鹿」になるつもりであったので、2年連続で家族で富士山に挑戦することにした。

ということで、今年は「リベンジ」の富士登山である。



「樹空の森」立体モデルより  
西から眺める富士山(大沢崩れ側)



# 富士登山



さて、今回の富士登山のルートは須走ルートである。

前回の高山病体験を経て、今回は低い山小屋で一泊・翌日登頂というプランを考えた。

ルートとしては、激混み・吉田ルートは避けたかった。世界遺産登録直後の今、登山客が殺到しているらしく吉田ルートは論外である。御殿場ルートはスタートの標高が極端に低く（距離が長くなる）、さらに低い位置には山小屋がない。そのため家族で利用するルートとしては論外である。富士宮ルートは練習登山も含め、すでに2度体験している…。

消去法的に須走ルートが浮上した。また子どもたちが砂走りをもう一度体験したいと言っていたのも須走ルートに決定する要因となった。

ちなみに須走ルートの特徴は、

- ・ 6 合目あたりまでは樹林地帯を歩く唯一のルートである。
- ・ スタート地点（5 合目）が標高 1980m と割と低く、距離も長い人気がなく（登山利用者全体の 14% が利用）、比較的空いている。
- ・ 下りは砂走りの区間がある。
- ・ 本 8 合目で吉田ルートと合流するので、時間帯によっては渋滞する。

今回は標高の低い本 6 合目（2630m）に宿泊することで、前回の失敗である「寝ている間に高山病」を避けることにした。また、ご来光を山小屋で見てから出発することで、吉田ルート合流後の渋滞を避けることにした。つまり頂上への到着する時刻が、御来光目的の深夜登山者と朝イチから登り始める日帰り登山者との間隙の時間帯になるように計画したわけだ。



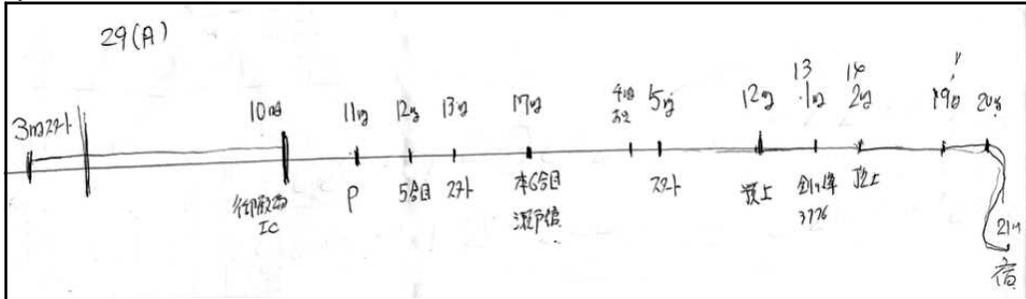


# 28周年記念原稿



## 1. 行程

- 7/29(月) 早朝出発。毎度の新名神+第2東名で御殿場 IC へ。須走ルートで登山開始。本6合目・瀬戸館泊。
- 7/30(火) 家族全員で登頂、さらにお鉢巡りもして、下山。御殿場のビジネスホテル泊。
- 7/31(水) 富士「樹空の森」見学、帰路につく。



↑↑↑↑↑ 出発前の大まかな登山行程表である。  
 まあこの通りに行ったかどうか、このあとを  
 ごらんあれ。

登山の予定を組むとき、パンフレットにある  
 コースタイムより、雑誌に載っている標準タイ  
 ム（休憩などの時間を含めて記載されている）  
 の方が現実的である。うちはさらに標準タイ  
 ムの1.5倍以上の時間を見込んでいる。標準タイ  
 ムよりさらに多めに取っているわけだ。

→→→→→

そして持ち物チェックリストである。  
 実はたいへんなものがチェックされていないの  
 だが…。おわかりになるだろうか。

	セ	カ	フ	ミ
服				
長靴	✓	✓	✓	✓
セーター 7枚	✓	✓	✓	✓
長靴	✓	✓	✓	✓
両足(上下)	✓	✓	✓	✓
帽子	✓	✓	✓	✓
手袋	✓	✓	✓	✓
登山杖	✓	✓	✓	✓
道具				
厚手のF2	✓	✓	✓	✓
下着 300円				
靴 300円				
めがね	✓	✓	✓	✓
マスク	✓	✓	✓	✓
ズボン	✓	✓	✓	✓
手袋	⊙	⊙	⊙	⊙
登山杖	⊙	⊙	⊙	⊙
サイト	⊙	⊙	⊙	⊙
ヘルメット	⊙	⊙	⊙	⊙
食料				
9時 2	⊙	⊙	⊙	⊙
1.3 水 500円	✓	✓	✓	✓
1.2 ゼリー 23	✓	✓	✓	✓
Gel 42	✓	✓	✓	✓
カシメ	⊙	⊙	⊙	⊙
日焼け止め	⊙	⊙	⊙	⊙
消臭	⊙	⊙	⊙	⊙
ハンカチ	⊙	⊙	⊙	⊙
タオル	⊙	⊙	⊙	⊙
E-10袋	⊙	⊙	⊙	⊙
O2?	⊙	⊙	⊙	⊙
筆	⊙	⊙	⊙	⊙
100円玉	⊙	⊙	⊙	⊙
カメラ	⊙	⊙	⊙	⊙
ゴミ袋	⊙	⊙	⊙	⊙



# 富士登山



## 2. 登山開始まで

さて、早朝3時に自宅を自動車を出発した。朝4時までインターに入れば高速道路的には「日曜日の夜」扱いで土日割引(50%OFF)が適用されるのだ。これは大きい。

勝手知ったる第2名神・新東名を經由して、御殿場インターに9時前に到着。これまたいつものコンビニで若干の食料・飲料を購入した。その後、須走ルート of シャトルバス乗り場を目指したのだが、どういうわけか5合目に向かう「ふじあざみライン」に入れてしまった。この時期の「ふじあざみライン」は規制による通行止めになっていると思いついていたのだが、昨年よりも緩くなっていたらしい。調査不足であった。言い訳をするようだが、旅行前日まで39度超の発熱を伴う風邪を引いていて、旅行を中止するか悩んでいた状態だったのだ。まあそれまでに調べられなかったわけではないので本当に言い訳なのだが。10時に5合目の無料駐車場にも無事駐車できた。

ちなみに宝塚からの走行距離は440km。

車で5合目まで入ることができたのは、荷物や時間短縮のこと・4人分のシャトルバス代のことを考えると本当に嬉しい誤算であった。

駐車場から5合目のお土産や通りに向かう途中でシカのお出迎えがあった。

お土産屋で昼食・今年も一本金剛杖を買う。

5合目の焼き印にはさっそく「世界文化遺産」の文字がある。



## 3. 須走5合～須走本6合(瀬戸館)

この日は天気が悪く、小雨が降っていたので、レインウェアを着込んでの出発である。

富士山保全協力金の試行が始まっていたのが、悪天のため「本日中止」とのこと。一人1000円としたら家族4人で4000円。本来かかるはずだった駐車代金やシャトルバス代の件といい、覚悟していた出費が抑えられラッキーである。その分、山小屋でお金を落とすことにしようと思う。

ちなみにこの協力金との引き替えにバッジがもらえるのだが、それがヤフオクで高騰、20000円越えで落札されていた。サクラ入札かも知れないが、もしかして機会損失?したのかもしれない。





## 28周年記念原稿



登山道に入ってすぐに古御岳神社（こみたけじんじゃ）。  
全員の無事と登頂をお祈りする。



登りはじめは樹林の中(左下)。

ときどき樹林から抜け溶岩流の跡を歩く。ここは溶岩流  
によって木々が焼き払われたらしく、高い木が少なく風を  
強く感じる(右下)。



### 14:35 新6合目「長田山荘」到着

コースタイムは1時間、ガイドブックの標準タイム  
が2時間だから、小雨と風の中をほぼ標準タイム通り  
に歩いたことになる。ゆっくりな我々にしては速かつ  
た。強い日差しや強烈な登りではなく、休憩が少なかつ  
たことが原因だろう。



ここで大休憩。山小屋に入り、しるこやおでんなどで暖を取る。  
この山小屋には乾燥室があり、ぬれたレインウェアや手袋などを乾かすこ  
とができたのは嬉しかった。



↑↑↑ 大粒の雨と日差し、そして突風。このあと天気は快方に向かう。



# 富士登山



15:30 新6合目出発

だんだんと背の高い木が少なくなってきた。そのせいか、天候の変わり目のせいなのか、風が強く感じられるようになった。



↑ 東の空に虹が出ていた

16:20 本6合目「瀬戸館」到着

この区間もほぼ標準タイム通り。コースタイムで言うと約2倍。

後で聞くと相棒さんは「しんどかった。けど目標がすぐだったから登れた」とのこと。



さて、今回の宿泊先・瀬戸館は、不人気・須走ルートでの、さらに需要の少ない低位置(2680m)にある山小屋である。5月に予約を入れ、7月初旬に日程変更をした際、変更元の日付を言うだけで「ああ〇〇さん」と特定されたので、その時点でうち以外は予約がなかったのだろう。1年前から予約を入れないといけないとも言われる吉田ルートとは雲泥の差である。そしてこの日、実際に宿泊したのも、うちの家族4人と雑誌の取材グループ3人だけだった。

瀬戸館は

- ・二食付き7500円・週末は+1000円(標準的)
- ・宿泊者のトイレ・焼き印無料
- ・夕食のカレーやごはん・ミネラルウォーターなど無料
- ・この日は夕食・朝食の際、手作りのナスの煮物などを振る舞ってくれた。
- ・寝床は蚕棚風で一人部屋があるのが特徴

この日は空いているとのことで、上下の4人部屋を割り当てられ、一人で2人分を使う贅沢仕様となった。手足を伸ばしたり寝返りを打ったりしても平気である。





天気は徐々に良くなってきて、青空も覗くようになってきた。

しかし昨年のような影富士が見えるわけでもなかったなので、早々に寝ることにした。

夜中、外にあるトイレに出たが、夜間登山で登ってくる若者のグループが小屋前で休憩をしていた。一緒になって星を眺めていたら流れ星が見えた。「おっ」と思わず声を出したら、若者の一人も気づいたのか「今流れましたよね」と同意を求めてきた。こういう地味な出会いというの、なかなか乙なものである。

一日目終了



#### 4. 須走本6合～山頂

二日目、登頂の日である。

4時前に起床（小屋のおばあさんに起こされた）、みな元気である。良かった。

4時には朝食、メニューは鮭の切り身・オムレツ・野菜サラダ・キュウリの浅漬け・味噌汁・ごはんである。



4時30分 小屋前でご来光待ち。

山中湖の向こう、雲の切れ間から、太陽が姿を見せた。同宿の雑誌取材班も当然ながらご来光を撮影していた。徐々に中判カメラを見た。





# 富士登山



5 : 30 本6合目「瀬戸館」出発

いよいよメインとなる二日目の登山の始まりである。

この6合目あたりが森林限界で高木は見あたらない。まだ低木や草はあるが、しだいに溶岩や砂礫が卓越してくる。

朝日が蒸発させるのか、雲が減ってきた。天気が良くなりそうである。出発30分で防寒具のレインウェアを脱ぐ。



本6合の上から撮影。すがすがしい朝である。左に山中湖・右に御殿場市内



岩場が多くなり、富士登山らしくなってきた



## 28周年記念原稿



途中、二十六夜月待塔があった。

「二十六夜月待」とは、十五夜と同じように二十六夜（新月前の逆三日月）の夜間に集まる信仰行事らしい。登山の安全祈願なのか、登山者がかけた多量の鈴が異様な感じがする。



6:50 7合目着

標準タイムぴったり。良いペースだ。

7合の山小屋・太陽館は「焼印はおまへん」「焼き魚定食 ギョギョウま！」などユーモアあふれる看板があり、経営者の人柄が偲ばれる。



7:10 7合目出発

7合目が標高 2920m なのでほどなく 3000m である。



このあたりから頂上までの間、雲の中に入ったらしく、日が陰って急に寒くなったと思ったら、風とともに雲が移動して視界が開け、青空が見えて暑くなったりと、天候がめまぐるしく変化していった。そのつどレインウェアを着たり脱いだりする。



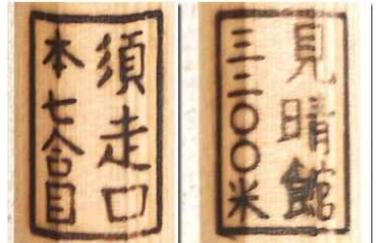
# 富士登山



8 : 05 本7合目到着 (標高 3200m)



ほぼ標準タイムどおりで登っている。  
カロリーメイトの袋が張り裂けんばかりに膨れあがっている。



8 : 35 本7合目出発

岩場の階段を登ったり、ブルドーザー道兼用のザレ場を上ったりのルート。  
ただザレ場は前日の雨のせいか、砂が適度に水分を含んでおり、あまり沈み込むことも滑ることもなく歩くことができた。呼吸も特に苦しいとは感じない。



右上写真の標識は、須走口と吉田口の下山道の分かれ道 (標高約 3330m)。  
この時点でうちの家族は昨年のリタイヤ地点を越え、最高地点更新である。  
この標識から少し上れば八合目である。

9 : 05 8合目「下江戸屋」到着

ここで山小屋で休憩、カップするこ等を食す。

9 : 35 8合目出発





## 28周年記念原稿



10:00 本8合目「胸突江戸屋」到着

ここはWOOのSさんが6年前に泊まった山小屋である。  
しかし…同じような昼からの時間帯から上り始めて、一日目にここまで一気に登ってくるとは、まったくもって恐れ入る。



さてこの山小屋では元 NHK アナウンサーの方が泊まり込みで山小屋の様子を二コ動で配信されておられた。われわれも映ったかも知れないが、残念ながら見るすべは無し。



10:25 本8合目出発

胸突江戸屋を北側に回るように進むと、吉田ルートの特モ工館がある。ここからは登山者の56%が利用する吉田ルートと合流した共通ルートとなり、一気に全登山者の70%が利用する混雑ルートになる。しかし我々が登ったのは平日、しかも前日は雨、さらに頂上でのご来光待ちと朝イチで登ってくる登山者のちょうど間隙の時間帯だったので、特別に混んでいるとも思わなかった。

登山グループがいくつも歩いていたのは、さすがメジャールート。年配のグループも多く、指導者のあとを実にゆっくりと、小幅な足取りで、しかし休むことなく登る姿に感心した。我々の家族グループもさすがに年配グループよりは速く、追い抜いたりもしたのだが、休み休み登るので、けっきょく山小屋の大休憩で追いつかれたりした。





# 富士登山



10:40 八合五勺着

七合目から上は山小屋が頻繁にあり良い目標となる。疲れているだけに目標が見えているというのは気分的に楽である。吉田ルートは最初からずっとこんな感じなのだろう。

富士宮ルートや御殿場ルートでは考えられない気安さである。

さて、そうは言っても、標高が上がるほど勾配が急になる富士山では、ここ八合五勺が最後の山小屋である。

水も食料もあるので、焼き印・トイレだけ済ませて出発。



10:50 八合五勺出発

錆鉄色のザレ場をひたすら登る。



11:20 9合目到着

9合目は鳥居と山小屋跡だけ。

鳥居には小銭が無数に差し込まれており、若干気味が悪い。

山小屋前や道ばたで倒れ込んでいる感じの人も見かける。我々は元気である。

今回の高山病対策は成功したようだ。





## 28周年記念原稿



12:05 須走・吉田ルート山頂（標高 3715m）到着

高山病の症状も、たいした疲れも感じないまま登頂に成功。

家族全員で登れたことが今年の成果である。旅行前の予定表では山頂12:00の予定だったので、ほぼ予定通りということになる。

最後の一段は家族全員で足を揃えて「せーのーで」で上った。



須走・吉田ルートの頂上には、神社や山小屋4軒が並ぶ。頂上は割と平坦な土地があるのだ。人の多さは観光地のよう。

写真のように自動販売機もある。もちろん値段は富士山価格である。



登頂後、まずは久須志神社で「富士頂上」「久須志神社」の朱色の刻印をもらう。また下娘に学業のお守りを買う。富士山の頂上なら霊験もあることだろう。上娘には今春に北野天満宮のお守りを買っているので「神様がケンカしたらあかんから買わんよ」と言うと納得する。素直である。

その後、山小屋のひとつ「山口屋支店」に入り昼食を取る。ここのしるこはカップしるこではなく、鍋で作っているらしい。まともな味がした。



「このあと剣が峰まで行くか？」と問うと、上娘が積極的な答え。時間的にはぎりぎりだが、天候・体力・気力ともに十分なら行かない理由はない。



# 富士登山



## 5. お鉢巡り

12:50 お鉢巡り出発

山小屋の並ぶ平坦な道を歩きだす。トイレと下山道を左手に見て、右側に火口を見ながら（時計回りの）お鉢巡り開始である。

先にも書いたが、流れる雲の中にいるらしく、青空が見えたと思ったら、霧の中に入って視界が悪くなったりと天候がめまぐるしく変化する。それでも雨に降られることもなく、直射日光に灼かれることもなく快適である。



20分ほどで御殿場ルート・富士宮ルートの頂上(どちらも標高 3730m)に達する。富士宮ルートの頂上には浅間大社奥宮や郵便局があるが、特に用もないので、裏手のトイレだけ利用する。ちなみにこのトイレは日本一高い位置にあるトイレということになる。

さて剣が峰に向かう。ここは去年は私一人で通った道である。今回は家族全員で歩けることに喜びを感じる。

さあほどなく馬の背…（下左写真）、並んでる…。最初は手すりを使う人が数珠つなぎになっているだけかと思ったのだが、近づいてみると、頂上の碑の記念撮影待ちの行列だと分かる。去年は私一人だったので、記念写真を撮らなかったが、今回は家族揃っての登頂、写真を撮らないわけにはいかない。すなわち列の最後尾について並ぶことにする。

しかし斜度20度と言われるこの坂の途中で止まるのもなかなかしんどい。ストック・金剛杖をしっかりと立てて姿勢を保持する。



待つこと30分…この時間は想定外でもったいなかったが、ようやく念願の「家族全員」での富士山山頂である。普段、写真は私か下娘が撮ることが多いのだが、山頂では近くの人が交代で写真を撮るようなコンセンサスがあり、気兼ねなく写真を撮ってもらう。めずらしく家族4人が写っている写真である。



## 28周年記念原稿



14:05 剣が峰（標高3776m）出発

右手に火口、左手には大沢崩れを見ながら、どっちに飛ばされてもアウトやなあ、などと言いながら進む。WOOのSさん、強風の中をよくご無事で…。ちなみに火口（大内院）の深さは約240m、底に小屋のようなものが見える。



登山道は雷岩を正面に見ると右手に曲がる。曲がった左側には小さな火口（小院内）が見え、ほどなく右手火口側に金明水の碑が見える。このあたりがWOOのSさんが彷徨した場所のようだ。視界が悪く他の登山者もいないと、さぞかし不安だったことだろう、と想像する。

お鉢巡り後半は火口南壁が見える。南壁は日当たりが悪いので万年雪がこびりつき、崩れた土砂が万年雪を黒く汚している。荒涼とした景色である。



14:45 須走・吉田ルート頂上に戻る

約2時間。お鉢巡りに2時間かかることは想定内だったが、これから下山するにははやい時刻になってきた。

しかし休憩・身支度のため、もう一度山小屋で食事。この時刻になると頂上の山小屋は食堂や売店を閉め始めていて、登頂後に入った山口屋支店には入れず、隣の扉屋を利用。ここのしるこは残念ながらカップしるこだった。うーむ。下山グッズであるマスクやスパッツを装備、安全めがねも取り出しやすい位置に置き、靴紐を締め直して準備完了

15:20 下山開始



## 富士登山



### 6. 下山

ざくざくとブルドーザー道兼用の下山道を歩く。私は前回と同じく右膝が痛い。また下山は足先に体重がかかるため、皆同じようにつま先が痛いようである。昨年、発見？した後ろ歩きを勧める。近くを歩いていた登山グループのリーダー格の人も「これが意外と楽なんですよ」とグループの人に話しながら後ろ歩きをしていたから、そんなにイリーガルな歩き方でもないのかもしれない。

(下中写真)ピンク色のウェアが下娘、登っているように見えるが、後ろ向きに降りているのだ。写真を撮っている私も後ろ向きである。1時間足らずで須走・吉田ルートに分岐点(標高 3270m)、8合目に到着。



8合目以降も基本は幅の広いブルドーザー道の下山道である。影が東の斜面に伸びる(左下写真)。さらにどんどん高度を下げると、ついに太陽が頂上側に隠れていった。



17:20 7合目(標高 2920m)

ここから砂走り下山道が始まる。須走ルートの楽しみの一つだったはずなのだが、期待が大きすぎた分、失望した。失望した理由は、砂の中に岩が多く含まれていて安心して走れないこと、コースの幅が二人が横になれる程度しかないことだ。これではスピードが出すぎたときに、けがをしないか心配で思いっきり走ることができない。さらに前日雨が降ったことで砂の抵抗も大きいことも原因であろう、真剣に飛ぶように体重を預けるとブレーキが掛かり、つま先や膝に大きな負担がかかる。この砂走り区間、皆、思うように下れず、後ろ歩きを併用して普通の歩きで下ることになった。けっきょく踏破するのに1時



## 28周年記念原稿



間20分もかかった。ガイドブックの標準タイムは1時間15分とあるので、まあ普通なのだろうが、つま先の痛さに日暮れへの焦りも加わりけっこう長く感じた。コースタイムでは50分と書いてあるが、これは本当に条件が良く走ることができた場合の時間のようだ。

御殿場ルートの大砂走りと比べると、同じ「砂走り」と呼ぶのが失礼なくらいの違いがあり、今回の登山ルートでは唯一残念な点となった。



18:40 砂払い5合目(標高 2300m)到着

この山小屋は午後6時までで、到着したときは人の気配すらなかった。

「完全制覇記念焼印」の文字がむなししい。

さて、ここで試練というか、準備ミスからたいへんな事態になってしまった。

はじめに書いた準備物の項で「たいへんなものがチェックされていない」と書いた。時刻はまもなく午後7時、もうおわかりであろう。日没対応である。私のヘッドライト一つしか無いという状態で夕暮れを迎えてしまったのだ。



陽はとうに富士山の向こう側である。空はまだ明るい、が、樹林の中に入ってしまうと薄暗い。富士山の登山道で唯一の樹林区間がある須走ルートだけに、日没対応は必須であったのに忘れてしまい、さらにその時間帯にまで下山が延びてしまった。たいへん危険な状態である。

砂払い5合目のあと、しばらくはブルドーザー道を下山できる。このまま下山できないものかと淡い期待を抱いていたのだが、残念ながら途中でブル道には通行止めのロープがかかり、樹林コースに誘導する標識があった。



空は明るい、が地面はすでに暗い→→→



## 富士登山



安全のことを第一に考えるなら、このままブル道を下山するのがベストである。だが、これも調査不足で、このブル道が登山口近くにつながっているという確信が持てなかった。そして、これまた失敗なのだが、GPS機能のあるタブレットを持っていたのだが、電池が切れていると思い込んでいて、その場で確認することもしなかった。コースタイムではおそらく登山口まであと30分、空は明るいし、まだ道も目視できる。だいたい逡巡したが、後にも下山者がいることを頼りに（あとで抜かれてしまうのだが）、コース通り樹林帯の下山道に行くことにした。

失敗であった。樹林帯に入って10分も歩かないうちに本当の日暮れ。完全に闇の森の中となった。

一つのヘッドライトを頼りに、私が5m進んで、後ろの家族の足もとを照らし、追いついたら、また5m進み…の繰り返しとなった。木の根のでこぼこ・岩場の高低差もあり、進行は困難を極めた。そんな中で家族の誰もパニックになることなく、懐中電灯を忘れた私を非難するでもなく、木の根や浮き石の情報を伝達するなど協力して下山できた。

塞翁が馬と言うが、普段の生活では感じることの少ない家族の絆というものを確認する機会となって良かったと思う。下っていく中で、「下山道」と書かれた小さな標識がたくさんあったこと、幸いにもこの区間は登下山共用だったので、夜間登山者や自衛隊の隊員（訓練なのだろうか）の集団と何度もすれ違ったことは心強かった。少なくとも道は外していない。いずれたどり着くことができるという安心感があった。それと登山口に車が待っていることも心強かった。もし麓からシャトルバスで上がってきていたら、バスの最終時刻も気になっていたはずである。

ということで牛歩の歩みではあるが、着実に安全に下山することを心がけた。

そんな状態で30分は歩いたであろうか、ようやく深い森が途絶え、視界が若干開けて、古御岳神社まで帰ってきた。やれやれである。行きと同様に社殿の扉は閉まっていたが、無事に帰って来られたことに感謝して手を合わせた。

その後は薄暗がりの中、登山口へ続く幅の広い参道を家族4人が横になって、小さな段差を声を合わせて軽快に降りていった。

19:45 須走ルート5合目(標高1980m)着

なんとかかんとか無事に到着。お土産屋さんの明かりが嬉しい。  
お店の方に椎茸茶をいただいて一息つく。

家族全員で富士山に登頂して昨年のリベンジを果たし、お鉢巡りまでしてきたってことを忘れるくらい、無事生還できたことが一番嬉しく思えた。